

4 真っ白な鹿

森の中を歩いていたのは
母と娘のふたり連れ
悲し気に足どり重く歩む娘の傍^{かたわ}らで
母親はうたいつづけていた

「マーガレット どうしたの
そんなに悲しそうに青ざめて
辛い定め^{さだめ}の恋をしているの
それとも恋人がつれないの」 5

「わたしが悲しそうに見えるのは
つれない恋人のせいではなく
緑の森に隠れて暮らす
辛い日々のせいなのです」 10

明るい陽の光の下では
娘の姿のままですが
九日目の真夜中になると必ず
真っ白な鹿になってしまいます 15

緑の森中を
猟犬や獵人^{かりゆうど}を連れた者たちに追われます
わたしをしつこく追い詰めるのは
いつだって立派なお兄さま」 20

.

「おはよう 母さん」 「おはよう 息子よ
おまえの立派な獵犬^{いぬ}たちはどこにいるの」
「ああ 楽しい緑の森の中で
真っ白な鹿を追っていますよ

獵犬^{いぬ}たちは三度鹿を追い詰めましたが
その度に逃げられました
四度目にあの真っ白な鹿を追う時には
必ずや仕留めさせましょう」 25

・ ・ ・ ・ ・

森から戻ってきた番人が
告げたことには 30
「野鹿の中に人間の娘の金髪など
見たことはありません

野鹿を森の中
東へ西へ追いましたが
人間の娘の胸をもつ真っ白な鹿など 35
見たことはありません」

マーガレットの兄がワインとパンを前に
立ち上がってこう言った
「聞いてくれ 俺にはたった一人妹がいたが
どうやらその妹を死なせてしまった 40

足と頭の場所に石を置き
愛する妹を埋葬してくれ
白いバラと赤いバラで
その美しい^{からだ}身体を覆ってくれ

俺は緑の森へ行かねばならない 45
身を守る屋根もいらぬ
これから七年の間横たわろう
サンザシの下の草の上に」

(宮原牧子訳)